

第1回推進会議 主な意見等

カテゴリー	サブカテゴリー	内容
教育	高校	北桑田高校の入寮希望者は定員を超えており，入学希望者からは他の家 に下宿してでも入学したいとの声が多い。
	小中学校	小中学校の生徒数は，複数学級が可能な人数がほしいところである。 30人～40人を超えると複数学級が可能（学年によって基準が異なる）。9年間ずっと同じ顔触れというのが解消される。
		出生数だけでは生徒が足りない， <u>小中学校をどうPRしていくか</u> が大切。
子育て	子育て環境・教育環境の良さにもっと着目して，発信していかなければ ならない。京北には，地域で子育て・教育ができる環境があるが，これ は大きな価値だ。	
農林業	森林	国道沿いのライフラインを確保するため，林業振興を兼ねて環境税を使 って桜であったり紅葉であったりの観光資源へ転換していくのも一案。
	農業 移住	田んぼも自分でやっている人は少ない。 <u>街中からきて田んぼ・畑をやっ てくれている人がいる</u> 。そういう人がいてくれるおかげでやっと景色が 維持されている。
	林業	林業こそ立て直しが必要なのではないか。専門的な大学などの力を借り るのも方法。北桑田高校もある。魅力的な資源を生かしてほしい。
		北山杉の磨き丸太を生産できる人が減り，いわゆる銘木屋も減ってき た。高級建築，文化財修繕等に必要な材の入手が困難になっている。
林業 施設活用	京北銘木生産協同組合は木工商品の販売拠点及び地域の重要拠点として 維持したい。オーガニック野菜や木材の販売拠点としての活用，丸太の 空間を生かしつつ人が集まれるような施設にして有効活用したい（ミニ コンサートなど）。	
林業 防災	山は防災を念頭に考える必要があるが，この頃金になる山しか間伐が進 まない。日本中の <u>山をいかに手入れして防災を考えるか</u> が課題。	
働き方・ 暮らし方	移住	移住者などにもっと話を聞くべき（移住してきてよかったことなど）で， それを発信してもらいたい。
		どうしたら人が増えるのか総合的に考えていく必要がある。 ①街に出た子息を呼び戻す。②新規の移住者を増やす。③リモートワ ークなど仕事関係の人を増やす などだろうか。
		京北は閉鎖的などころもある気がするし，市内に近いわりに，移住がそ れほど増えないのもそれが一因かもしれない。

カテゴリー	サブカテゴリー	内容
	観光	スマホやネット，例えばFacebook やツイッターなどにより周山城址や周山の商店街の取組を発信する仕組みができないかと考えている。
		今年の河川におけるバーベキューなど利用客は異常なほど多かった。 <u>呼び込み方次第で色々な可能性があると思う。</u>
	交通	福祉有償運送においては，赤字経営ではあるものの，基金活用によって維持できているが， <u>今後の財源について検討が必要。</u>
		<u>ふるさとバス運行についても，みんなで乗って守ろうといった思いの反面，乗らない人が多いのが実情である。</u>
リモートワーク	コロナ禍における在宅勤務など， <u>パソコン1台あれば仕事ができる時代。それを京北のいい環境の中でやってもらいたい。</u>	
その他	京北は都市部から近いところに加えて， <u>隠れた歴史的資源も多くあるところ。夢と希望のある町である。</u>	
検討の 進め方	—	<u>目に見える形で進めてもらえたらありがたい。若い人の意見を聞いていただきたい。</u>
		<u>会議委員は高齢者が多いが，やはり若い人々が中心にならなければいけないと思う。見るからに行政的な委員構成になっているが，肩書がビジョンを作るのではない。</u>
		<u>京北地域の中でも業種を超えてうまくつながり，自分たちで考えて事業をやっている若者がいる（高校での授業でも貢献）。そういった人材の意見を取り入れてもらいたい。</u>
		<u>何をもって「かがやき」（＝理想）とするのかによって，推進会議でやるべきことは変わってくるはずだ。地域がめざす先を，きちんと設定・共有し，取り組む内容はすべてそこにつながっているようにしなくてはならない。</u>
		<u>大学等外部からの参入者がビジョンを牽引するのではなく，地元が中心になるべき。</u>
		<u>大御所を並べて会議の体裁を整えるにとどまるのではなく，具体的に実働できる人材の育成が，ビジョンを成功させるうえで肝要。</u>
		<u>分野別検討会では，委員ではない，若い人の中から活発に活動している人に参画をよびかけてほしい。</u>